



TASUKU KAWANO

東御市梅野記念絵画館
www.umenokinen.com

河野扶展 向うからやってくるもの — 作意を捨てて

2021.8.8^{MON} — 2021.10.17^{SUN}

休館日 = 月曜日 (祝日の場合は翌火曜日)

会場 = 東御市梅野記念絵画館 大展示室

開館時間 = 9:30 - 17:00 (最終入場 16:30)

入館料 = 一般 800円 (団体 700円)

※中学生以下無料 ※団体割引は15名様以上から ※身障者割引、学校利用減免、減額制度あり



上: 赤の侵食
下: 気流

河野扶展

TASUKU KAWANO

江戸時代に上方貿易の港として栄えた宮崎県美々津(現在の日向市南部)で、代々藩医を務めた家に生まれた河野扶は、京都第三高等学校を経て東京帝国大学で数学を学び、数学の教師をしながら生涯を通じて絵を描き続けました。

戦後の日本美術界は西洋から抽象絵画が怒涛の如く流入し、1950年代後半からはアンフォルメルという絵画様式が洋画界を席卷しました。具象絵画を描いていた河野扶もまた、絵具を厚く盛り上げた抽象に転向します。

そして1980年代後半になり、70歳を超えた河野扶は、特異な境地にたどり着きます。

かつて身につけた厚塗りの技法をもとに、キャンバスに絵具を無作為に塗りつけ、乾いては削り、再び塗っては削るという繰り返しのなかで、河野扶は画面から作意が抜け落ち、自分の意志ではなく他の何者かの指示で描かされていると感じる時があることに気づきます。それを河野扶は「向うからやってくるもの」と語りました。「さりげない絵を描きたい。無技巧の技巧。むつかしいことだけれど」「画面からいかに作意を取り除くかが、恐らく私の生涯をかけ



赤い屋根 (シャルトル水辺)



作品63-1

向うからやってくるもの



壁の喫茶室4

ての課題となるだろう」「茶室に懸けて少しの違和感もない油絵を描きたい」

そう語った河野扶は、晩年になり外来様式としての抽象から離れて、これまで誰も描いたことのない日本人の体質に根差した抽象絵画を創り出しました。東洋的な無我、虚無的思想に裏付けされた河野扶の抽象芸術を楽しんでいただければと思います。

河野扶展 オープニング講演 8/8 [日] 13:30～

講師:すどう美術館 須藤一郎

1936年東京生まれ。東京大学法学部卒。サラリーマンとして勤務しながら現代美術の蒐集をする。1990年10月より町田の自宅を開放し、妻・紀子と共に「すどう美術館」を開館(後に銀座、小田原へ移転)。同館館長。現在は、ギャラリー等での展示やアーティスト支援活動などを行っている。すどう美術館HP <http://www.sudoh-art.com>

同時
開催

ZINE展 8/8～9/5

東信濃工芸作家展 9/18～10/17

www.umenokinen.com

■ 鉄道等の場合

しなの鉄道・田中駅から
タクシーで15分。

■ お車の場合

上信越道・東部湯の丸IC
から約20分。 Google Map▶



東御市梅野記念絵画館・ふれあい館

〒389-0406 長野県東御市八重原935-1 芸術むら公園
TEL:0268-61-6161 FAX:0268-61-6162



作意を捨てて